

特集 不妊・不育
助産師に今、求められる知識とケア

5

不妊と性の問題

浜崎京子
三秀会中央クリニック 副院長



POINT

- ① 性に関する相談はさまざまな問題を含んでいます！
- ② 相談の事例を通して、対応のあり方を考えましょう！
- ③ 気持ちを伝え合うことの大切さを学びましょう！

はじめに

不妊治療の現場に入り不妊で悩む人々に関わるようになって約20年になります。その間、不妊の人々を取り巻く環境は大きく変わってきたと思われまます。

当初より不妊カウンセラーとして面接・電話・FAXでの相談を通して、多くの人々のさまざまな思いを聞いてきました。治療技術の発達や、社会の不妊に対する考え方や対応が変化していても、相談内容はそれほど

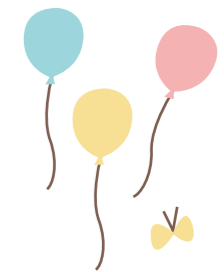
変わりがないように思います。不妊治療についての不安や疑問はもちろん、夫・家族との関係、とくに姑との確執、仕事、職場での人間関係、そして今回のテーマである性の問題についてと多岐に渡っています。そのなかでは苦しみ、悲しみや戸惑い、怒り、焦り、諦め、思いやりや優しさ、期待感、喜びなどさまざまな感情が吐露されています。不妊の問題は治療だけでなく、根幹的な夫婦の

関係性、生き方、将来の展望、そして社会的な繋がりも含めて考えなければならぬことでしょう。

さてここでは不妊と性の問題について考えたいと思います。不妊の検査や治療は、夫婦間の実にプライベートな部分である性行為にまで踏み込んでしまう場合があります。そのため、不妊治療がその後の夫婦関係に大きく影響を及ぼすということも考えられます。

今回は日々の相談の中からいくつかの事例を紹介します。どのような問題点が含まれているのか、またどのように対応したらよいかを考えていただきたいと思います。

なお事例は個人が特定できないように年齢・設定などを変えて紹介しています。



事例(1)：自ら人工授精を希望した例

電話相談

年齢：妻 42歳



クライアント

あの、結婚して1年になるのですが、自分の年齢が42歳になっているので、早く受診した方がいいかなあとって……。



カウンセラー

そうですね。年齢のことを考えると妊娠するのは難しくなっているかなと思われたのですね。



はい。でも年齢のことだけでなく、夫は45歳ですがうまく関係がもてないのです。だからこのままでは妊娠できないと思って……。



性交ができないということですね。いつからですか？



つきあいが1年半くらいあるのですが、はじめのころは普通にできていました。でも2人ともあまり性欲は強くなって、よほどどちらかが促さないとない状況だったので自然となくなったんです。結婚すると決まったころ、夫がうまくいかなくなってその後は2人で触れ合ったりはあるのですが、性交はできていません。2人としてはそれでいいと思っているのですが、でもこれでは妊娠できないので相談した結果、受診することを決めたのです。



2人の間ではどのように考えているのですか？ちゃんと性交できるようにして妊娠したいと思っているのですか？



私たちは性交できなくても仲はよいし、それはなくてもいいんです。妊娠するために性交しようとする、それは大きな負担となるし。人工授精という方法があるということなので、それを希望しているのです。



それはご主人とご相談のうえで、2人が人工授精を希望するということですね。



そうです。すぐに人工授精をやってもらえるのかなど、いろいろと不安に思って電話してみました。